
とある親父の日常生活（デイリーライフ）

尾綿洋

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある親父の日常生活
デイリーライフ

【Nコード】

N6173T

【作者名】

尾綿洋

【あらすじ】

西成に住むとある親父のハチャメチャワンダフルライフのお話

俺は上条恭介50歳、無職、童貞。世紀末都市西成に住んで20年になる。人は俺の事を無職の能なし呼ばわりするが、俺には秘められたチカラを持っている。それがこの右手だ。この右手にはどんなものでもオカズに出来るという能力を持っている。不幸にしてこの能力を他人に披露したことがなく、故に能なしだと思われる。この能力はその名のとおり女子高生、から幼女、熟女、青年やジジイでも絶頂に至る事が出来るのだ。

そんなこんなで俺の日常が始まる。俺は生活保護で手に入れた金15万を元手にギャンブルで金を稼ごうと画策していた。この西成には日常的に至る所でギャンブルが行われているのだ。

そこで俺はチンチ口をすることにした。この場を仕切る長、大木の下にはすでに4人ほど人が集まっておりまもなく開始しようとしていたところだ。

「大木さん。俺も混ぜてくれや」

「上条か、まあ座れや」

そう言われると俺は大木の正面に座った。

「ほな、始めるで、まずはお前からや」

という大木は茶碗を上条の前に置いた。

大木を始め五人はそれぞれ金を出した。1万、1万、2万、5千、1万……。

上条は茶碗の中にサイコロを投げ入れた、だが、目なし。続いて二投目……またも目なし。そして三投目ついに出るだが出た目は2。残念だな上条。金は頂くとするか」

そして五人は次々にサイコロを振っていく。結果全敗。上条の所持金は9万5千となった。

「ごっつあんです上条さん」

「クツソーどうなってやがるんだ」
上条は唇を噛んだ。

そして右に番が周っていき大木の番が来たこの時上条はわずかに勝ち所持金を10万円としていた。

「わしの番ださあ張った張った」

そう言うの上条は有り金全て10万円を掛けた。

「ここが勝負どころ限界まで行く……」

「馬鹿な正気か、狂ってやがる……」

そういうと大木はサイコロを持ち額のところまで手を上げると何やら念じ始めた。

その時上条は白目を剥き、両手で鼻の穴と口を広げ笑いを誘った。これには堪らず大木サイコロをこぼした。

すると大木恐怖に戦き顔面蒼白、失禁する。

「今のはな、な、な、無しだ……。そうだ、ノーカン！ノーカン！ノーカン！」

大木突然のノーカンの連呼。

「ふざけるな、今のはシヨンベンだ。ルール通り金を払え」

大木にゴミが投げつけられた

「そうだそうだ卑怯者金払え」

「チンチ口のルールを知らないなんて言わせないぞ」

これには大木根負け渋々金を払う。

こうして上条は10万円合わせて20万円を手に入れる。最終的に18万円。3万円の勝ちを上げた。

「畜生覚えておけ」

大木はこう言い放ち去っていった。

俺は手にした金を使いスーパーへと向かった。このスーパーは安売りが売りの店である。というか西成は物価が安く通常の2割〜3割引は当たり前前で、中には半額以下の商品もある。そこで俺はカツパと出来合いの弁当、タバコ、そしてライターを買った。

そうして俺の住むボロアパートに向かった。部屋に入るとゴミが

雑然としていたがそれを気にせずテレビの前に進み、野球中継を見始めた。

買ってきた弁当を食べながら悪態をついた。

「なんでシヨート、こんな球も捕れんのか」

「バッター今のは打たなアカンやろ。なにやっとなのか」

「多田野ええやないか。股間をえぐるようなストリート観てて気持ちええわあ」

そして、買ってきたタバコに火を付けた

「多田野く、アツ！打たれたやないか」

「そこや……いへ……う……ん」

突然睡魔に襲われ眠ってしまった。

数十分後鼻にツーンと刺激臭がし目を覚ますとゴミから火が出ていた

「大変や、大変や消防呼ばんと」

しかし、電話料金を支払っていないため電話は使えない。

「うん困った困った。そうや」

ある考えが浮かんだ。すると、上条はズボンを脱ぎ続いてパンツを脱ぎ。局部を露出させた。

「そうや、俺にはこの右手があるこれで火を消せばいいんや」

そういうと、股間をしごき出した。

「TDN！TDN！TDN！TDN！ううううわああああああああ

ああああああああああああああん！！！！

ああああああ……ああ……あつあつー！！ああああああ！！！！TDN

TDN TDN うううあわああああ！！！！

ああクンカクンカ！クンカクンカ！スーハー！スーハー！スーハー！スーハー！

ーハー！いい匂いだなあ……くんくん

んはあつ！多田野数人さんの黒色の髪をクンカクンカしたいお！クンカクンカ！ああ！！

間違えた！モフモフしたいお！モフモフ！モフモフ！モフモフ！髪髪モフモフ

！カリカリモフモフ……きゅんきゅんきゅい！！！！

マウンド7回のTDNたんかわいかったよう！！ああああ…ああ…あつあああああ！！ふああああんっ！！
テレビ出演決まって良かったねTDNたん！あああああ！かわ
いい！TDNたん！かわいい！あつあああああ！
ビデオも発売されて嬉し…いやあああああ！！にやあああ
あああん！！ぎやあああああ！！
ぐあああああああ！！契約なんて現実じゃない！！！！
あ…マウンドもテレビもよく考えたら…
TDNちゃん は 現実 じゃ ない？にやあああ
あああああああん！！うあああああああ！！
そんなあああああ！！いやあああああああ！！はあ
あああああん！！北海道ああああ！！
この！ちきしょー！やめてやる！！現実なんかやめ…て…え！？見
…てる？表紙絵のTDNちゃんが僕を見てる？
表紙絵のTDNちゃんが僕を見てるぞ！TDNちゃんが僕を見てる
ぞ！挿絵のTDNちゃんが僕を見てるぞ！！
テレビのTDNちゃんが僕に話しかけてるぞ！！よかった…世の
中まだまだ捨てたモンじゃないんだねっ！
いやっほおおおおお！！僕にはTDNちゃんがいる！！や
ったよTNOK！！ひとりでできるもん！！！！
あ、ビデオのTDNちゃんあああああああ！！いや
あああああああ！！野獣先輩あああ！！
あつあなあつあなあKYN様ああ！！D、DB！！HTNああ
ああああ！！
うっうっうっ！！俺の想いよTDNへ届け！！北海道のTDNへ
届け！！
そう言つと大量の精を放ち果てた。火は消えていた。
「俺のこの能力が役に立つ時が来るとわな。はははっ」
快活に笑った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6173t/>

とある親父の日常生活（デイリーライフ）

2011年5月31日17時43分発行